

## 上方落語を満喫 (金融労連 2013 全国学習交流集会)

A 「僕は虫歯なんか1本もない」  
B 「ええ歯してるね」  
A 「こう見えても今年36やから」  
これは普通の会話です。それが大阪での「ツッコミ」をちょっと効かせると、  
A 「僕は虫歯なんか1本もない」  
B 「全部入れ歯か？」  
A 「こう見えても今年36やから」  
B 「孫が？」

というふう思わず笑ってしまいます。

「みんなで思いっきり笑ってストレス発散を！」をメインテーマに、6月8～9日に大阪で開かれた「金融労連 2013 全国学習交流集会」には、全国から45人の仲間（近畿からは13人）が参加し、大阪の「お笑い」のエッセンスを学び、大いに楽しみました。

今回の全国学習交流集会は、例年と運営を変え、初日は大阪らしく「天満天神繁昌亭」で上方落語や漫談を鑑賞した後、田畑書記長による「お笑いのエッセンスを組合活動に」と題したミニ講演～分散会～交流会。

2日目は分散会と全体会議を行ないました。この集会の様子は、機関紙「金融労連」(6月10日号)に詳しく掲載されていますので、本紙面では、近畿からの参加者の感想を中心にご紹介します。

●最近、こんなに笑ったことはなかったので、スッキリした。落語がこんなに面白いものだとは思わなかった。自分も笑い、周りの人も笑い、みんな同じ気持ちになれたのがよかった。(きのくに・Mさん)



(落語鑑賞後は自然と笑顔に！天満天神繁昌亭前で)

◆普通の会話にツッコミを生かすこと。「笑い」で仲間の範囲を増やすこと。(弱者をいじめて笑いをとる)の範囲を増やすこと。(弱者「吉本」は大阪の笑いではない。とても興味を抱きました。(三井住友信託・Tさん)  
▲落語鑑賞は実際に見ると迫力があり、テレビで見ると全然違い、面白かった。また家族で来たいと思った。田畑講演は「笑いは健康の源であり、職場での笑いが理解者・仲間を増やすことを教えてもらった。

(きのくに・Iさん)

■落語は新鮮な企画で良かったが、後のスケジュールがタイトになったので、今後みんなで研究して改善していきたい。田畑講演は組合の仲間の講演で肩のこらない内容で眠らず聞いて良かった。

(三菱東京UFJ・Mさん)

★2階席は席幅が狭いため少し苦勞したが、約3時間の落語鑑賞は思い切り笑わせてもらった。さすがに「プロ」、それぞれ持ち時間をフルに生かしての話には感心した。(金融ユニオン直属分会・Fさん)

▼ナマで落語鑑賞ができて面白くて良かった。久しぶりに大笑いできた。(金融ユニオン直属分会・Iさん)

「大阪は初めて」「落語鑑賞は初めて」という参加者も多く、交流会はもとより、夜遅くまで大阪の街と味を楽しんでいる仲間の姿が目立ちました。



(近畿地協の森さんが地元を代表して歓迎のあいさつ)

## 橋下大阪市長「慰安婦」暴言に連日抗議行動

5月13日の橋下大阪市長（維新の会共同代表）による「慰安婦」暴言とそれ以降の経過は、それ自体許せないものであり、どう取り繕っても消せないものです。地元大阪では、大阪労連を中心に発言の撤回と謝罪、さらに大阪市長の即時辞任を求め、連日抗議行動を展開し、金融ユニオンからも仲間が参加しています。

大阪府議会開会日の5月21日には、松井大阪府知事と維新の会大阪府議団に対する大阪府庁前昼休み抗議行動に取り組み、24日には単産宣伝カーによる集中宣伝・大阪市役所への抗議デモや橋下市長への個人請願行動を行ない、元不働信金従組の佐藤和美さん（金融ユニオン）による「橋下大阪市長は謝罪と発言の撤回を！」とのシニプレヒコールは、全国版のテレビニュースなどでも報道されました。

### 橋下訪米中止、キャンセル料も公費支出

橋下市長は、6月に予定していたアメリカ訪問の中止を発表しました。

橋下発言には、米国務省報道官も「言語道断で侮辱的」と批判し、訪問予定先で大阪の姉妹都市サンフランシスコ市幹部からも不快感が示されていました。さらに現地では人権団体によるデモ計画の情報などもあって、訪問中止に追い込まれた形です。

ひどいのは、橋下氏の訪米中止によるキャンセル料を大阪市の公費で支払うと述べている点です。

これまで大阪市民への公共サービス、福祉・教育予算を「ムダ使い」と称して次々にカットしてきた橋下市長が、自分の暴言が原因で中止した訪米キャンセル料を公費で支払うことに新たな批判が沸きあがっています。

（写真は大阪府庁前での抗議行動）



## 仲間を増やし要求前進

### （三井住友信託銀行・大阪）

4月に金融ユニオンに新しく加入された三井住友信託銀行（大阪）の資産運用アドバイザーのTさんが要求していた60歳以降の雇用延長について、組合との交渉の結果、「エルダー嘱託」として契約更新が実現。

Tさんは、1年契約の営業職で、今年7月に60歳を迎えるにあたり、「引き続き働きたい」と考えていましたが、最近になって職場では些細なミスを理由に、継続雇用拒否をほめかされていたため、組合に加入しました。金融ユニオンは、明石支店の組合員も参加して5月16日、団体交渉を行ない、銀行から「契約期限到来の6月末に、60歳を迎える7月末までの1カ月の契約更新を行なった上で、7月末にエルダー嘱託として、とりあえず1年間の契約更新を行なう」と、要求内容に沿った回答を引き出しました。

Tさんは今年のメーデーや今回の全国学習交流集会にも参加するなど、いま労働組合の魅力を満喫中です。

★ ★ ★

続いて、5月28日に大阪本店法人業務部の営業嘱託社員である松原久仁彦さん（元・不働信金従組）の組合加入通告を行ないました。

旧・中央三井信託銀行時代を含め8年近く働いてきた松原さんは、今年6月末の契約期限の最近になって、現在の職務内容の変更を言い渡され、「従来の賃金を維持するには新たな資格取得が必要である」などというような説明を受け、契約更新や生活への不安を感じて当組合に相談されました。

金融ユニオンは、「合併をきっかけに銀行の都合で一方的に職務内容の変更を行ない、それに応じなければ、雇止めや大幅賃下げを迫るような乱暴なやり方は、到底容認できるものではない」として、6月13日、団体交渉を行ないました。銀行は「これからは金融リスク商品販売にも期待する」としながらも、従来と同じ内容の労働条件での契約更新を約束しました。

このように三井住友信託では仲間の要求実現に知恵と力を出し合い仲間を着実に増やしています。

### 女性管理職の私服化で困惑（きのくに信金）

きのくに信金では、女性の管理職者には、制服が貸与されず、私服で勤務するようになってきました。

制服に要する経費削減が狙いであることは明らかですが、お客さんからは「制服が与えられない臨時社員かと思った」との声も聞こえてきます。

現場からは、「私服と言っても、勤務にふさわしい服装かどうか気になるし、上司からは、いろいろ注文をつけられたりもするので、結局、仕事用に新しい服を買ったりしています。制服のお金を出さないのなら、口も出さなくてもいい」など、私服着用による自己負担の増加や服装への注文に困惑模様です。